

施設名	竹の塚保育園
施設所在地	竹の塚3-7-33-106
法人名	(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音
表現

<テーマの設定理由>

様々な国籍の子ども達が共に園生活を楽しんでいるという園の特色を活かし
音＝音楽に国境無し。
言葉では理解出来ない事も、音楽を通して一つになる体験をする事が、設定理由です。

2. 活動スケジュール

令和7年6月～令和8年3月の間 1ヶ月に1度ヴィオラリトミック
年末には、季節の行事に親しむミニコンサート
卒園お祝い会では、卒園を祝う祝奏等を講師にお願いする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが本物の音色に触れる機会を設ける。
ヴィオラ奏者（講師）をお招きする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

乳児＝保育室に講師をお招きし、季節の歌などを歌って音に親しむ。
幼児＝ホールにてリトミック形式でリズム感や体幹等を養う。
保育者も一緒に活動に参加し子どもたちの活動意欲を高めたり
活動の様子を写真に収めたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

様々な国籍の子どもたちが一つになって活動に参加する事が出来ていた。
言語理解の未熟な子どもたちも本物のヴィオラの音色を体感することができていた。
リトミック終了後、講師の方と保育者で意見交換を行った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

大人も、子どもも「本物」のすばらしさを体感できた。

施設名	竹の塚保育園
施設所在地	竹の塚3-7-33-106
法人名	(株)ベネッセスタイルケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

園のホールやテラス保育室等の広いスペースを活かして、絵を描いたり制作したりする事で自分の感情や考えを表現する練習となり段々と自己肯定感や達成感を味わう事が出来る又、作品を通して他児とコミュニケーションを図り、繋がりを深め探求心を育てていく。

2. 活動スケジュール

令和7年6月～令和7年11月の予定であったが、令和8年2月迄に変更となった。
(感染症が拡大してしまった為)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

平型筆・丸型筆を本数を増やした。
指絵の具など、ボディペイント等の使っても良い絵の具。
色画用紙な。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年4回活動を行う

- ・音を描く。
- ・匂いは、何色だろう
- ・紙を折って切って貼って
- ・計画中(2月実施)

専門の講師をお招きし保育者も子どもがわくわくするような活動を工夫する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

普段控え目な表現の子どもも、造形活動で、絵の具やクレヨン等の教材を使用するとダイナミックに自己表現する事が出来ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感覚過敏の子ども達の活動を工夫したい。

施設名	竹の塚保育園
施設所在地	竹の塚3-7-33-106
法人名	(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然との関わり

<テーマの設定理由>

広い園庭ダイナミックに砂や自然の感触を楽しむ。

2. 活動スケジュール

午前中の自由遊びの時間に、砂の感触を味わいそこから創造力を発展させる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂場玩具 シャベル・バケツ・型抜き等
各年齢の発達に合わせた玩具を用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂の感触に触れ、様々な遊びを通して感覚を磨き、想像力や、社会性を探求する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

砂場で、発達に合った玩具を使い、他児とのやり取りや、保育者との関わりの中でままごと遊びを楽しんでいた。
「貸して」「いいよ」や、保育者に対して「はい、どうぞ」などの声も聞かれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

もう少し早い時期に提供したかった。

施設名	竹の塚保育園
施設所在地	竹の塚3-7-33-106
法人名	(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚・五感

<テーマの設定理由>

広いホールや室内を使い、乳児がハイハイや、昇降運動をする中で脳の発達を促し体幹を鍛えバランス感覚を養う事でさらに探索活動により興味関心を深める。

2. 活動スケジュール

日常の室内活動の中で発達を促す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ハイハイマット 坂道・階段。
乳児の発達を促す又は、発達に即した教材設定する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ソフトブロックの、階段や坂道を登ったり降りたりすることで、子どもがより多くの刺激を受け探求活動をより盛んにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ソフトブロックの階段・坂道を登り切ったり、坂道を降りたりすることで、達成感を味わい、「やったー」や「わーい」等の声が聞かれた。
保育者は、子どもが無理なく安全に活動出来るよう、関わりを工夫した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お山等のパーツを増やし活動が盛んになるようにしたい。